

日本各地で豪雨による被害が発生し、天災の恐ろしさを感じる日々が続きます。土砂災害の様子を新聞やテレビで見ていると、山間部に住む私たちは他人事と思えません。危機意識をしっかりともち、自分の命は自分で守るという気持ちを高めましょう。新見市防災マップには土砂災害危険箇所や浸水想定区域、避難場所などが記されているので、確認してみるのもいいかもしれません。

実力テスト・期末テストが終わりました

3年生になって初めてのテストがありました。「テストが続くから大変…」という声をよく聞きますが、これで弱音をはいているようではいけません。テスト週間には学習時間を集計していますが、学習時間が不十分であったり、教科によって学習時間の大きな偏りが見られたりということも気になりました。テストの点数に一喜一憂するのではなく、苦手なところはどこか、これから何をすべきなのかを考えましょう。

集中して取り組んだ書道教室

7月6日(月)・8日(水)に書道教室がありました。藤岡先生に来ていただき、「友愛の精神」という難しい課題を書きあげました。藤岡先生が1・2年生にしてくださった話が心に残ったので紹介します。

「叱られるのは期待をされている証拠」という言葉です。今では多くのお弟子さんを抱えている藤岡先生ですが、そんな先生もお師匠さんからお叱りの言葉を受けていたそうです。しかし、お叱りの言葉は期待をしてくれているからこそだと思い練習に励んだそうです。

だれでも、自分の意に反することを言われたり、努力を認められなかったりすると腹が立つと思います。そこであきらめてしまいか、自分のためを思って言ってくれていると思うかで、その後の人生が変わってきますね。



～保護者の皆様へ～

下校時に急な豪雨に遭うことが多くなる季節となります。生徒には坂を下りている途中でも学校に引き返すなどして、身の安全を守るように話をしています。連絡の取り方や待ち合わせ場所など、ご家庭でも確認をお願いします。

道徳の授業より

強制収容所にユダヤ人を送る車内から投げ出された赤ちゃんが、成長し、生きていることの尊さを訴えた文章を読みました。命は大切であるということは全員が認識していることですが、この教材を読んで、命の重みについてもう一度考えることができました。

～感想～

- ・エリカが生まれた時代は、いつ死ぬかわからない状況でした。でも、その中でなんとか生きようとする気持ちが心に響きました。
- ・家族や自分、周りの人の命はとても大切なもので、とても重く尊重しなければならないものだと感じた。そして、差別はしてもされてもいけないものだと感じた。
- ・自分の命は自分だけのものじゃなくて、家族や友達からも大切にされていることが改めてわかった。ユダヤ人のように生きてくても生きられなかった人の分まで、大切にしようと思った。
- ・母が大事にして守ってくれた命を、女の人は危険をおかしても育ててくれてユダヤ人だからと言って差別せず見捨てない優しさがすごいと思いました。母や父、たくさんの方が育ててくれた大切な命だから一生懸命生きようと思いました。
- ・普通に何事もなく生きていると命の大切さについて忘れそうになるけど、多くの方が支えてくれているからこそ命があって輝けると分かった。

ユダヤ人迫害に関する書籍は図書室にもたくさんあります。心が苦しくなるようなものが多いですが、過去の出来事から目をそらさず、差別のない新しい世界を作っていくのは、わたしたちの使命です。道徳では、命について考えましたが、もう少し知りたい、学びたいと思う人は次の本を読んでみましょう。



「4歳の僕はこうして
アウシュビッツから生還した」



「杉原千畝物語」



「フェリックスとゼルダ」